



大阪公立大学出版会

No.50

NEWSLETTER

ニュースレター

Osaka Metropolitan University Press (OMUP)

〒599-8531 大阪府堺市中区学園町1-1 大阪公立大学内 TEL 072-251-6533 E-mail omup@omup.sakura.ne.jp URL https://www.omup.jp/

目次

- | | | | |
|-------------------------|------------|---------------------------|------------|
| ・OMUP創立25周年を迎えるにあたって | 八木 孝司 … 1 | ・自著を語る (53)「戦中・戦後90年を生きて」 | 中川 喜代子 … 3 |
| ・第20回OMUP総会報告 | …………… 2 | ・新刊書の紹介 | …………… 4 |
| ・自著を語る (52)「生命と科学技術と社会」 | 山本 由美子 … 2 | ・編集後記 | …………… 4 |

ごあいさつ

OMUP創立25周年を迎えるにあたって



OMUP理事長
八木 孝司

日本の多くの大学には、その名称を冠した出版会が存在します。出版会の形態はさまざまで、年間100点以上を刊行する国内最大の東京大学出版会是一般財

団法人です。近畿地方では、京都大学学術出版会是一般社団法人、大阪大学出版会是一般財団法人大阪大学後援会・出版事業部、三重大学出版会は株式会社、関西学院大学出版会は任意団体、大阪公立大学出版会は特定非営利活動法人（NPO法人）として運営されています。関西大学出版部、大阪経済法科大学出版部、奈良教育大学出版会のように大学の内部組織として運営されている例もありますが、多くの大学出版会は教員の自主的な活動から始まり、大学本体から独立して運営されています。

大学出版会の役割は、大学教員が日々取り組む教育や研究の成果を広く社会に伝えることにあります。研究成果は多くの場合、専門誌に掲載されますが、一般の方が目にする機会ほとんどありません。博士論文も国立国会図書館に収められますが、読むには高いハードルがあります。研究成果をより身近に知っていただくためには、わかりやすい本として出版し、書店などで手に取っていただける形にすることが最も効果的です。

しかし商業出版社は、どうしても売れる本を優先せざるを得ません。そのため執筆依頼は著名な研究者に限られ、多くの大学教員には声がかからないのが現状です。自らの研究を社会に発信しようとする場合、自費出版という選択肢もありますが、大手出版社に依頼すると相当な費用がかかってしまいます。

そこでOMUPは、定款に次のように掲げています。

「民間出版社では採算が取れず刊行されにくい、優れた学術書を世に送り出し、広く市民や学生に大学での研究成果を還元し、地域の学術振興や文化発展に貢献する。」

NPO法人は、設立時に厳しい審査を受け、さらに毎年の活動報告・決算報告の提出が義務づけられています。そのため社会的信用度が高いとされます。また、利益を役員に分配することは法律で禁じられています。私たちはこの規則を守り、「大阪公立大学」の名にふさわしい健全で信頼される出版活動を心がけています。

ちなみに「自費出版」と検索すると、低価格をうたう出版社が数多く見つかります。ただし依頼にあたっては、本のサイズや紙質、表紙や見返しの仕様、編集・校正の有無や回数、図表や写真の掲載可能数、ISBNコードの付与、出版情報登録センター（JPRO）への登録、書店流通の範囲や方法、著者への販売利益の還元率など、細かな条件を確認することが大切です。

OMUPでは、まず原稿を常務理事会で審査します。公序良俗に反するもの、強い政治的主張、営利目的の宣伝などはお断りする場合があります。著者にはOMUPの会員になっていただき、その後相談のうえ書籍の体裁を決定し、仮見積もりを提示します。編集担当者が著者・OMUP事務局・印刷会社と連携して入稿から校了まで編集・校正を進め、最終的には編集長が内容を精査して印刷・製本へと進めます。編集長は自身の出版社を経営する出版の専門家であり、OMUP設立以来この役を担っています。刊行された書籍は国会図書館に納入され、取次店を通じて一般書店やオンライン書店で販売されます。2025年8月現在、OMUPが刊行した書籍は累計289点に達しました。

OMUPは、大阪府立大学の教員有志が中心となり、大阪南部に位置する公立5大学（大阪市立大学、大阪府立大学、大阪女子大学、大阪府立看護大学、同医療技術短期大学部）の教員に広く呼びかけて設立されました。その出発点となっ

たのは、2001年2月17日に開かれた「大阪公立大学共同出版会」設立総会です。それから25年、2006年にNPO法人化、2022年に「大阪公立大学出版会」へと名称変更を経て、来年2月に創立25周年を迎えます。このOMUPニュースレター

も、本号で50号に達しました。
OMUPはこれからも「会員の、会員による、会員のための出版会」として活動してまいりますので、今後とも変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

第20回OMUP総会報告

令和7年6月21日（土）11時から12時15分、大阪公立大学中百舌鳥キャンパスB14号棟2階自己研修室において、第20回特定非営利活動法人大阪公立大学出版会（OMUP）総会が開催された。総会成立を確認後、八木孝司理事長を議長に選出し、大塚理事と山東理事を議事録署名人に指名して議事に入った。

第1号議案「令和6年度事業報告」では、図書19冊の刊行、「新入生に薦める100冊の本」の発行、ニュースレター2回（No.48、49）の発行、丸善e-Bookライブラリーでの電子書籍販売、国立国会図書館への納品、大学図書館への寄贈、編集会議での意見交換、ブックフェア「大阪公立大学の先生の本」の開催、ホームページ・フェイスブックでの情報発信などが報告された。印刷製本費の値上がりはあったが、最終的に1,150,041円の黒字決算となり、満場一致で承認された。

第2号議案「令和6年度活動計算書」では、監事が「適法かつ正確」と報告し、承認された。

第3号議案「業務契約」では、税理士法人悠久杉本会計事務所との顧問契約、事務局職員との雇用契約、編集校正業務を担う委託契約者との継続契約が提案され、承認された。

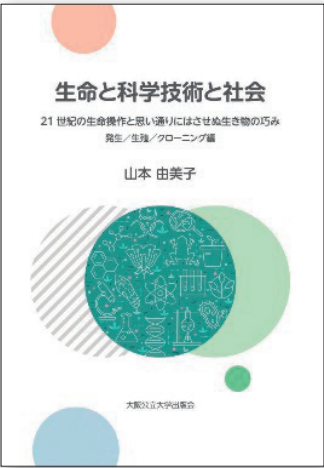
第4号議案「令和7年度事業計画」では、研究報告書・博士論文などの単行本出版や「OMUPブックレット」シリーズ、教科書の小部数出版に注力すること、さらに受託販売、絶版書籍の電子化、ブックフェアや出版目録の作成、ニュースレターや「新入生に薦める100冊の本」の発行、ホームページ・SNS運営、OMUPサロンの開催、大学図書館への寄贈など、前年度同様の事業を展開することが承認された。

第5号議案「令和7年度活動予算」も提案通り承認された。
（文責：中村 治）

令和6年度事業決算および令和7年度事業予算書（単位：円）

科 目	R6 決算額 (税抜き)	R7 予算額 (税抜き)	増減
経常収益			
収益部門収益			
書籍売上	5,454,286	5,380,000	-74,286
出版収入	8,529,107	8,445,000	-84,107
出版収入	5,762,876	5,720,000	-42,876
受取利息	4,443	4,000	-443
雑収入	8,867	5,000	-3,867
小計	19,759,579	19,554,000	-205,579
公益部門収益			
寄付金収入	0	0	0
入会金収入	110,000	120,000	10,000
小計	110,000	120,000	10,000
経常収益合計	19,869,579	19,674,000	-195,579
経常費用			
収益部門費用			
売上原価			
期首商品棚卸	1,709,525	1,764,193	54,668
製作費	10,000,713	10,000,000	-713
運送・発送費	324,840	330,000	5,160
編集デザイン料	423,209	502,857	79,648
期末商品棚卸	-1,764,193	-1,700,000	64,193
管理費用			
雑費	3,873,930	4,000,000	126,070
法定福利費	291,887	300,000	8,113
福利厚生費	56,539	80,000	23,461
業務委託費	300,000	300,000	0
旅費交通費	434,443	440,000	5,557
通信費	109,264	110,000	736
会議費	13,646	40,000	26,354
地代家賃	0	0	0
水道光熱費	43,951	150,000	106,049
保険料	103,100	110,000	6,900
著者精算	1,321,884	1,700,000	378,116
消耗品費	788,623	700,000	-88,623
事務用品費	104,342	110,000	5,658
租税公課	2,800	3,000	200
広告宣伝	62,496	65,000	2,504
支払手数料	101,430	110,000	8,570
諸会費	0	0	0
新聞図書費	0	0	0
雑費	0	150,000	150,000
法人税等	324,179	300,000	-24,179
小計	18,626,608	19,565,050	938,442
公益部門費用			
製作費	92,930	100,000	7,070
小計	92,930	100,000	7,070
経常費用合計	18,719,538	19,665,050	945,512
当期経常収支増減額	1,150,041	8,950	-1,141,091

自著を語る（52）



生命と科学技術と社会
21世紀の生命操作と
思い通りにはさせぬ
生き物の巧み
発生／生殖／クローニング編

著者：山本 由美子
A5判、並製本、124頁
2,200円（本体価格2,000円＋税）
978-4-909933-92-8 C0045

本書はバイオテクノロジーに焦点をあて、それら諸技術の基本的かつ科学的な仕組みをまず正確に把握したうえで、ヒト含む生き物をめぐる、生命と科学技術と社会の関係を読み解こうとするものである。とくに生物学と医学および医療寄りでアプローチするのは、いずれも私たち自身の生き物としての生命や身体と密接に関わっているからである。
本書は学部生向けテキストとして構想されているが、意外と知らないバイオテクノロジーの諸技術やそのメカニズムについては、学生のみならず一般の読者や専門外の教員にとっても、広く知的好奇心を刺激しうるよう企図した。なにしろ、全編フルカラー印刷で、写真を除く図版のほとんどは著者みずからが制作している。本文には所々に科学

史的エピソードも盛り込んでおり、各章ではコラムのほか、さらなる探求へと誘う註や読書案内を加えて理解を助けている。

本書の趣旨は、単にバイオテクノロジーの賛否を問うそのどちらに与するかを迫るような議論の再生産ではなく、別の仕方バイオテクノロジーを展望してみたい、というものである。端的に、本書ではバイオテクノロジーに関わる生命というものの、あるいは生き物というものの、〈したたかさ〉に注目したいのである。それは生命というものが放つ、人間の手中に置かれてもなお〈思い通りにはさせぬ〉、そのありようと面白さを垣間見るものとなるはずである（もちろん、生命のすべてが人間の手中に置かれているわけではない）。このことは、バイオテクノロジーの手放しの賞賛や推進・過信を意味せず、はたまた絶対禁止を掲げて思考を停止させることとも距離を置く。

本書執筆の動機は、本学での著者の担当科目「生命と科学技術と社会」における、学生たちの思いもよらぬ発言やクスツとする質問に刺激を受けたことによる。高校理科をすっかり忘れてしまった学生もいれば、鋭い視点のもと哲

学的考察にまで果敢に挑む学生もいてさまざまである。実は、例年そうであるように、本科目含む著者の講義の受講者たちは、「めちゃくちゃ面白い」派、「ぜんぜん面白くない」派、「まあそれなりに（仕方ないから単位だけは取っておこう）」派に三分される。おそらくは、必ずある解答を見つけるための方程式を知りたい人や、何を考えどう答えるべきかをあらかじめ提示してほしい人にとっては、退屈を超えて苦痛かもしれない。なぜなら、学生みずからで問いを見出すことを講義の目的としているからであり、解くべき問題やその「最適解」が教員から自動的に与えられるわけではないからである。

したがって、本書も、読者自身が問いを立て、その探求に向けて視野を広げるとともに、さらなる思考を深めていくてくれることを願って書かれている。少なくとも、その一助になることを期待したい。今秋から授業テキストとして採用する予定であるが、知人や研究仲間によれば、本書は「さりげなく痛快」だといわれている。どこがどのように痛快なのか、これも含めて学生からの評価を待つしかない。

（大阪公立大学 山本 由美子）

自著を語る（53）



戦中・戦後 90年を生きて

いま研究者を志す
女子学生へ

著者：中川 喜代子

B6版、上製本、132頁
2,200円（本体価格2,000円＋税）
978-4-909933-93-5 C0095

1932年7月生まれの私が5歳になった1937年7月に盧溝橋事件をきっかけに日支事変が始まり、1941（昭和16）年12月には太平洋戦争開戦と、小学校卒業まで戦争の時代が続いた。本書は、戦争にまつわる厳しく哀れな時代があったことを甥や姪たちをはじめ戦争を知らない戦後生まれの人びとに戦争と平和について考えてほしいと思い、小学校時代に体験した学童集団疎開の話を書こうと思ったのが本書執筆の動機でした。子どもたちにおはぎなどを持って面会に来てくれる母親がひそかに差し入れてくれたお菓子を荷物置き場の自分の行李に大切に入れたのを盗まれた悲しい体験は朝日新聞の「声」欄24.11.12）に紹介された。Tシャツとは異なって嵩張るワンピースを小さな洗面器で洗ったことや合宿してまもなくしらみに襲われたこと、とにかくお腹が空いてたまらなかったことなど忘れられない集団疎

開の思い出の数々、中学から高校時代のクラブ活動で国体優勝したソフトボール活動などを経て、大阪市立大学に進学。素晴らしい指導教官に鍛えられて被差別部落の実態調査に熱中、さらに大学院博士課程まで突き進んだ学生時代が前半の内容である。

日本育英会特別奨学生として大学院博士課程に在籍し、念願の文学博士第一号を取得、複数の国公私立諸大学の非常勤講師を経て、幸運にも国立奈良教育大学教官に採用され、当時、女性としてはほとんど閉ざされていた大学教官の狭き門を何とか切り拓いた。奈教大の卒業生の多くが教師として児童生徒の教育に携わっており、関東以西の自治体の多くも部落差別を主題とする人権啓発・人権教育の推進を課題としていたが、適切な著作等はほとんどなかった。

「人権教育とは」①人権について教え、理解を促進し、②人権尊重の態度を育て、③人権問題を解決するための行動へと向かわせる能力・技能を育む総合的な教育活動であり、学校教育、研修、トレーニング、生涯学習の場を通して伝えることが必要である【国連人権教育10年】。当時の人権教育・啓発は人権問題や部落差別の歴史・実態などを受け身で受講するだけで、自治体などが制作した映画と徳目強制の講演とがセットになった画一的なものが多かった。1985年ペットマン氏（オーストラリア人権教育総局長）の来日を期に、『ヒューマン・ライツ―楽しい活動事例集（イギリス・ヨーク大学グローバル教育センターのG.パイク、D.セルビー著）、「実践人権教育の方法―フランスのテキストから」（R.フォルター、L.ランタンフ共著）など、受講者が主体的・意欲的に学習する素材を翻訳・紹介した。これらは人権教育の

参加型の学習、現状のマネリズムを打破する試みとして好評だった。

最後に、出版会から、「いま研究者を志す女子学生たちに一言を」との要請があった。男性よりも女性研究者に対す

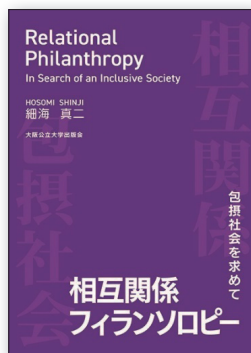
る家族や世間の風当たりは今日でも厳しいものがあるが、初志貫徹、信頼し敬愛する指導教官のもと、自分の信じた道を貫ぬかれることを期待する。頑張れ女性研究者!!

(中川 喜代子 奈良教育大学名誉教授)

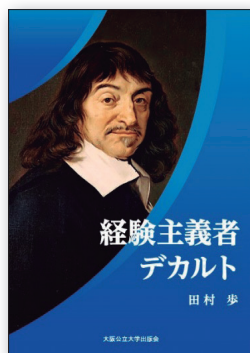
新刊書の紹介



持続的な里山づくり入門 —ボラン
ティアからコミュニティビジネスへ—
著者：小堂 朋美
A5判、並製本、104頁
1,980円（本体価格1,800円＋税）
978-4-909933-94-2 C0036



相互関係フィランソロピー 包摂
社会を求めて
著者：細海 真二
A5判、並製本、256頁
2,750円（本体価格2,500円＋税）
978-4-909933-85-0 C0036



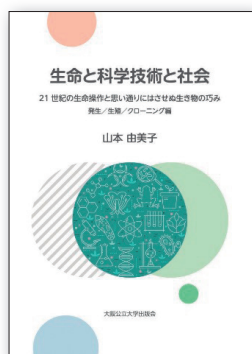
経験主義者デカルト
著者：田村 歩
A5版、並製本、140頁
2,200円（本体価格2,000円＋税）
978-4-909933-87-4 C3010



戦中・戦後90年を生きて いま
研究者を志す女子学生へ
著者：中川 喜代子
B6版、上製本、132頁
2,200円（本体価格2,000円＋税）
978-4-909933-93-5 C0095



最新生物化学実験 —入門から応用へ—
編者：大阪公立大学 理学部生物化学科
A5判、並製本、244頁
2,200円（本体価格2,000円＋税）
978-4-909933-91-1 C3045



生命と科学技術と社会 21世紀の生
命操作と思い通りにはさせぬ生き物の
巧み 発生/生殖/クローニング編
著者：山本 由美子
A5判、並製本、124頁
2,200円（本体価格2,000円＋税）
978-4-909933-92-8 C0045



フェイスフリーな自治体財務管理体制
と会計情報 —アフターコロナ時
代の財務レジリエンス向上に向けて—
編著者：遠藤 尚秀
A5判、上製本、228頁
3,795円（本体価格3,450円＋税）
978-4-909933-86-7 C0034



地方公営企業の経済学
著者：足立 泰美
A5判、並製本、194頁
2,750円（本体価格2,500円＋税）
978-4-909933-88-1 C3033



ドイツ・フランス・日本の障害者
雇用と福祉
著者：高橋 賢司・小澤 真・
大曾根 寛
A5判、並製本、182頁
2,530円（本体価格2,300円＋税）
978-4-909933-82-9 C3036



波動推進 Wave Propulsion
著者：森 浩一
A5判、並製本、120頁
1,980円（本体価格1,800円＋税）
978-4-909933-89-8 C3042



金属超微粒子 —基礎と応用—
著者：棚橋 一郎
A5判、並製本、136頁
3,190円（本体価格2,900円＋税）
978-4-909933-84-3 C3042



編集後記

9月というのに、猛暑が続いております。秋の気配はいつになれば感じることができるのでしょうか。

事務局からのお知らせです。事務局兼出版本書籍倉庫でもあった部屋が一新。場所は同じ（中百舌鳥キャンパスB14棟2階）ですが、出版希望者とのお打合せが広々としたスペースで可能となりましたので、お気軽にお越しくださいますようお願いいたします。

(湯井順子)